

大学史研究会 第32回研究セミナー

2009年12月5日(土)～12月6日(日)

会場：東北大学史料館

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 (<http://www.archives.tohoku.ac.jp/>)

12:30～ 受付

13:00～17:00 シンポジウム「学問の自由と大学自治—ドイツ・アメリカ・日本—」

趣旨 世界的な大学改革のもとで、大学の本質的属性であった学問の自由と大学の自治が揺れている。大学が市場化され、経営の自由と自律性は拡大しているが、反面、教員の自由との関係では葛藤が生じているのである。

日本の歴史では、大学自治は学問の自由の制度的保障と理解されてきたが、アメリカにおいては、大学自治はまず経営の自律性として、政府と大学との関係として現われ、学問の自由の概念が現れてくるのは、ドイツの学問の自由概念の導入を経てからであった。しかし、今日でも大学教員の学問の自由と大学のオートノミーは一致する概念ではない。

また、学問の自由それ自体も、外部者の資金に基づいて行われるようになると、資金提供者への応答責任が生じ、研究者の自治にのみ委ねられなくなった。研究テーマも、遺伝子工学のように生命倫理やバイオ・ハザードの危険性を含み、社会的・政治的統制によって学問の自由を制約しないと、人類社会に危機が及ぶようになった。

複雑化した学問の自由と大学自治の問題を、大学史研究会として初めてとりあげ、議論してみたい。パネリストには、ドイツ大学行政に詳しい金子勉氏、『赤狩り時代の米国大学』（中公新書、1994年）を著し、戦後アメリカ大学を国際政治学の視点から取り組んできた黒川修司氏を招き、日本大学史研究の立場から、羽田貴史氏を含めて討論してみたい。

パネリスト：  金子 勉 氏（京都大学大学院教育学研究科准教授）……ドイツ

 黒川 修司 氏（東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授）……アメリカ

 羽田 貴史 氏（東北大学高等教育開発推進センター教授）……日本

○司会：田中 正弘（島根大学教育開発センター講師）

全体討議（途中にショート・ブレイクをはさみます）

17:15～17:45 総会

18:00（開始予定）懇親会



1日目:12月5日(土)

9:00～11:00 自由研究発表

1. 「イギリスにおける女性のアカデミック・プロフェッション 1880-1930」

香川 せつ子 氏（西九州大学健康福祉学部教授）

2. 「中世オルレアン大学ドイツ人ナシオの地理的出自について」

松浦 正博 氏（広島女学院大学人間・社会文化学科教授）

○司会：井上 美香子（九州大学大学院）

11:00～ 史料館見学

12:00 解散



2日目:12月6日(日)

参加費：会員・非会員（有職者）2,000円
大学院生・非会員（非有職者）1,000円
懇親会参加費：4,000円（要事前申込）

お問合せ・お申込み先 ○申込期限：2009年11月27日（金）
ご所属・ご氏名・連絡先を明記のうえ、e-mailにてお申込みください。
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2 広島大学高等教育研究開発センター
事務局セミナー担当 福留 東土
TEL&FAX：082-424-6231 E-Mail：